

ポローニア

paulownia



絵:「カラフルアニマル」勝田凜華(附属桐が丘特別支援学校 小学部4年)

目次

教育長挨拶

巻頭言「筑波大附属学校群の未来を思え」◆茂呂雄二……………2

「三浦海岸共同生活」

～全附属11校で取り組んだ交流の3日間～

◆三浦海岸共同生活教職員実行委員会……………2

附属大塚特別支援学校との交流を通して ◆加藤宣行……………3

1年次コミュニケーションキャンプ ◆渋谷陽介……………3

コミュニケーションキャンプー歯科技工科ー

◆福田靖江……………4

高2キャンパス体験 ◆石井裕志……………4

黒姫高原生活ー附属中学校2年生の共同生活

◆小石沢勝之……………5

蓼科生活～附属高校 第一学年のHR合宿～

◆大内康宏……………5

三浦海岸共同生活に向けての事前学習 ◆小林健吾……………5

共生社会の実現に向けて～共に作り上げる交流の場

◆杉田葉子……………6

生徒とともに学ぶ教員免許状更新講習 ◆梶山正明……………6

令和でスタート! 新校舎!! ◆田丸秋穂……………7

令和元年度自立教科(理療)担当教員講習会を開催

◆徳竹忠司……………7

朝永振一郎記念 第14回「科学の芽」賞

表彰式・発表会のご案内……………8



筑波大学
University of Tsukuba

附属学校教育局

<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp>

vol. 46

筑波大附属学校群の未来を思え

附属学校教育局 教育長 茂呂雄二



YUJI
MORO

本学建学のアイデアのひとつは「開かれた大学」です。この意味は、現状に留まることなく、つねに変化に対してオープンであることを意味しています。これは、本学の現在の目標であるトランスボーダー化のもとにあるアイデアでもあります。附属学校群もまた、このアイデアの下に、あらゆる壁や境界を取り除いて、新しい教育学習環境を創造して、社会にとって有意な人材の育成を目指しています。

長い伝統を持つ、附属学校群のこれからの100年を思うとき、このアイデアは非常に有効なものとなると考えます。長い伝統は一方で経験の集積や社会資本の蓄積がもたらす恩恵を意味します。しかし他方で、歴史がもたらす、惰性や様々な慣例がつくる制約の弊害も意味します。学校種の違い、障害の有る無し、学年の差、各校の独立性、教科の専門性などなどを当たり前のものとしていますが、それらが邪魔して、創造的な共同活動を阻んでいないでしょうか。100年後どころか、10年後でさえも、このような常識や当たり前は崩れて、全く別の社会が出現するかもしれません。

附属学校群の未来を思うには、これらの制約、バウンダリー、境界線をつねに乗り越える、そのような議論を継続する必要があります。



「三浦海岸共同生活」 ～全附属11校で取り組んだ交流の3日間～

三浦海岸共同生活教職員実行委員会



シーカヤック

8月25～27日に、三浦YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジで全附属学校（11校）の児童生徒（8～18歳）98名が共同生活を行いました。今回は、過去4年間の黒姫高原共同生活での成果を発展させ、初めて全附属学校（11校）による海での共同生活に挑みました。児童生徒たちは5月に実行委員会を立ち上げ、バスや館内でのレクリエーション、キャンドル・ファイヤーの企画を練り上げるとともに、誰もが活用できる“しおり”の作成に励みました。主な行程は次の通りです。

【1日目 8月25日(日)】

集合・【出発式】(附属高校)ー【企画0:バスレクリエーション】ー到着ー【企画1:野外炊事(カレーライス他)】ー【入村式・施設オリエンテーション】ー夕食ー【企画2:レクリエーション】ー生徒実行委員会ー就寝

【2日目 8月26日(月)】

起床・【体操】ー朝食ー【企画3:海の活動 シーカヤック&砂の造形】／【企画4:貝のフォトフレーム制作&スイカ割】ー昼食ー

【午前と企画を交代】ー【プチ退村式】ー夕食ー(夕食後に久里浜の児童は帰宅)ー【企画5:キャンドル・ファイヤー】ー就寝

【3日目 8月27日(火)】

起床・【体操】ー朝食ー【企画6:ウォークラリー】ー【まとめ活動】ー【企画∞:バスレクリエーション】ー到着ー【解散式】(文京校舎)



キャンドル・ファイヤー

附属大塚特別支援学校 との交流を通して

附属小学校 主幹教諭 **加藤宣行**

附属小学校では、毎年附属大塚特別支援学校との交流をしています。例年、附属小の一つの学級と、大塚特別支援学校の小学部とが一緒に半日を過ごす活動を、年に3回程度行っています。

今年度は、私の担任する5年生のクラスが6月に保谷農園でのジャガイモ堀りを大塚の子どもたちと一緒にに行いました。

写真の子どもたちの様子から見えますように、声を掛け合ったり、力を合わせたりして行う活動を通して、互いの距離が縮まっていきます。実は、この5年生は、昨年度も大塚の子たちと交流を行っているので、「久しぶり!」「大きくなったね」といった会話も多く聞かれました。

ジャガイモ堀りの他に、広場での交流会も行いました。互いに用意してきたダンスをしたり、ゲームをしたり、楽しいひとときを過ごしました。

お楽しみはまだあります。収穫したジャガイモを使って、役員さんが作ってくださったカレーを、みんなでおいしくいただきました。

保谷農園で、ジャガイモほり&大塚との交流会がありました。私のペアのSちゃんが、自然に手をつないでくれることがとても嬉しかったし、ダンスを一緒におどれたのは最高でした。私が今回経験をして分かったことは、生き方や性格がちがうのは素晴らしいということです。そして、交流会またやりたい!! (5年女子の日記より)

このように、子どもたちは体験を通して様々な学びを深めていきます。

これ以外にも、今後大塚特別支援学校に訪問しての交流会も計画しており、こちらも子どもたちはとても楽しみにしています。



1年次コミュニケーション キャンプ

附属坂戸高等学校 教諭
渋谷陽介

20年間の黒姫高原でのコミュニケーションキャンプをリニューアルし、本年度より栃木県那須高原での開催です。活動の中心となるのが

プロジェクトアドベンチャーというアメリカで開発された体験教育プログラム、人間関係で大切な「人を信頼する心」や成長のために必要な「自分自身を見つめ直す」ことを体験することができます。

当初、地上6mで命綱を付けた2人が手を合わせての綱渡りなどダイナミックな活動を計画していたのですが、当日は、なんと季節外れの雪、一面の銀世界です。初日、2日目と、室内でゲーム研修を行いました。最終日は思いが通じたのか、青空が広がり、野外施設で3.6mの壁を全員で協力して登る「ウォール」という活動を実施することができました。アイデアを出し合い、作戦を定めます。失敗を繰り返しながらも時間内に全員が登り越え、ひとり一人が充実した表情を浮かべていました。

総合学科での学びは、「自分で考えて、動いて、結果を受け入れること。」「仲間同士で活動を振り返り、質問を合うこと。」「多様な観点で、自分の行動を振り返ること」が重要です。そんな学びの姿勢を学んだ2泊3日でした。



コミュニケーション キャンプ―歯科技工科―

附属聴覚特別支援学校 高等部専攻科歯科技工科 教諭
福田靖江

歯科技工科では、毎年入学式間もない4月中旬に3学年合同の宿泊研修「コミュニケーションキャンプ」を行っています。コミュニケーションキャンプは、生徒間、生徒と教員間のコミュニケーションを図ることを目的としており、スポーツやレクリエーションなど様々な企画を通して、親睦を深めます。企画の班分けは、学年を超えた縦割りにしており、そこに教員も入ります。日ごろ話すことの少ない他学年の生徒や教員と接するよい機会となります。毎年生徒達からは、「楽しかった」「先輩や後輩とたくさん話ができてよかった」「きずなが深まった」などの感想が聞かれ、親睦の場として有意義な行事となっています。一昨年は千葉県鴨川、昨年は山梨県富士吉田、今年は4月17日から東京都八王子市高尾で実施しました。

1日目、宿泊先である「高尾の森わくわくビレッジ」に到着。歯科技工科主任の話や生徒による学生会と学校生活についての説明の後、卓球で体を動かしました。



夕飯は屋外でバーベキューです。3回目となる3年生は新割りや火おこしも慣れたものです。1、2年生に教えながら、にぎやかな夕食となりました。夕食後は行事委員会企画の交流会。楽しいゲームに笑いが起こりました。

翌日は、高尾山に登りました。1号路(表参道コース)は、道幅が比較的広く、手話を使って話しながらも登ることができます。途中薬王院を参拝し、頂上へ。天候に恵まれ、展望台からは富士山を眺めることができました。2日間の宿泊研修を通し、楽しく交流ができたことと思います。



高2キャンパス体験

附属視覚特別支援学校 副校長
石井裕志



大学でのミニ講座

筑波大学附属視覚特別支援学校の高等部では、総合的な学習の時間において、高等部2年生を対象とした筑波大学のキャンパス体験に1日出かけます。(今年度は7月12日に実施)

本年度も人間学群・障害科学類の先生方や学生さんたちにお世話になり、1日かけて大学生活を体験しました。午前は大講義室でのミニ講座を生徒全員で受講し、その後はグループに分かれ、障害学生支援室や図書館内の見学、大学構内の散策、学食で食べるなどの体験ができました。午後の活動では、大学の授業や課外活動の話や視覚障害当事者の学生から学習支援についての話があり、生徒たちは大学生活に対して抱いていたイメージをより具体化できたようです。生徒の事後のまとめでは、「大学での障害者支援の具体的なイメージが持てた。」「視覚障害から困ったことが起きたとき、その状況を人に伝え何を協力してもらったら改善するか、自分には何が出来るかを考えて行動する力を身につけたい。」という声があがりました。

進学だけでなく今後の進路を考える上で、生徒たちには、今回の体験から学んだことを大いに活かして欲しいと考えています。

図書館で学生と一緒に本を探す体験



黒姫高原生活—附属中学校2年生の共同生活

附属中学校 教諭
小石沢勝之

黒姫高原生活が7月16日(火)から19日(金)にかけて実施されました。3年間を通じて最初で最後の学年全員で過ごす共同生活です。登山、オリエンテーリング、カレー作り、学年レクなど、様々な体験活動が行われました。

宿泊行事というと体験活動ばかりが目立りますが、共同生活を成功させるためには、事前の学級委員の準備や生徒の心構えが大切です。現地では室長、美化・生活係、食事係など一人一人が自分の役割を遂行し、学級委員—室長—室員、すなわち学年全員が同じ思いを共有すること、目標に向かって臨機応変に行動することが必要になります。これらの大切さを学べた4日間であり、今後の学校生活に活かせる共同生活になりました。

登山道にて



蓼科生活～附属高校 第一学年のHR合宿～

蓼科山頂にて



附属高等学校 教諭 大内康宏

7月18日～8月5日、長野県の立科町にある桐陰寮で、1年生のクラス合宿が行われました。

蓼科生活では自分たちの力不足を、嫌というほど思い知らされます。

飯盒炊爨では1時間半苦戦しても火が起きず、地図とコンパスを頼りに遠足に出れば、道に迷って目的地に辿り着けません。食器に洗剤が残っていて皿洗いのやり直しを命じられ、レクは計画不足でぐだぐだです。そして、3分で火を起こしてしまう寮の管理人さんや、どこで道を間違えたか後から詳細に解説してくれる付添OB・OGとの、圧倒的な力量の差を感じさせられます。

しかし(だから?)、帰京した時はみんな晴れ晴れとした笑顔です。また行きたいと思った生徒も、もう二度と行きたくないと思った生徒も、充実した3泊4日となりました。



三浦海岸共同生活に向けての事前学習

附属久里浜特別支援学校 教諭
小林健吾

三浦海岸共同生活に参加する本校6年生は、野外炊飯とシーカヤックの2つの活動に焦点を当て、事前に学校で学習に取り組みました。野外炊飯では畑にかまどを作り、火を起こしました。火が苦手だった児童も、火の扱いを学習することで自分から近づけるようになり、調理では一人で包丁を使って野菜を切ったり、切りやすいように野菜の向きを工夫したりできるようになりました。また、シーカヤックをプールに浮かべて練習をしました。パドルで交互に水をかいて進んだり、正しい乗り方を学習したり、安全に楽しく乗ることができるようになりました。これらの学習を通じて、三浦海岸共同生活本番では見通しをもって取り組み、多くの児童生徒と関わりながら楽しく過ごすことができました。

学校プールでのシーカヤック



火起こしの事前学習



共生社会の実現に向けて ～共に作り上げる交流の場

附属大塚特別支援学校
教諭・中学部主事
杉田葉子

本校では文部科学省の「学校における交流及び共同学習を通じた

障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」を4年続けて受託し、持続可能なインクルーシブ交流モデルの構築を目指した研究に取り組んできました。中学部・高等部では、「相手の良さ」を知り、「お互いを思いやり、尊重し合う」ことができる学びの場として、「目的意識を持って共に作り上げる交流の場」を大切にしています。

中学部では、10年以上前から附属高校と交流を行なっています。今年度は5回の交流が計画されており、双方が企画する交流を展開しています。9月7日(土)には「桐陰祭」に参加しました。たくさんの模擬店や企画が行われる附属高校の文化祭。その一角に中学部も出展し、絵画や作文などの作品展示と作業製品を販売しました。互いに支え合いながら一緒に販売する姿はとても微笑ましく、自然な関わりが印象的でした。7回目となる合同ステージ発表では、育鳳館に集まった大勢の

観客の前で合奏や合唱を披露しました。中学部が1学期の音楽で取り組んできた曲を7月の交流会で一緒に練習してきた生徒たち。今年は、教師の支援がなく、生徒達だけで発表することができました。附属高校との交流では、互いを知り、認め合う貴重な機会となっています。今回のように、いつもと違う緊張感のなかで発表する経験は、生徒たちにとって大きな自信となり、多くの高校生や保護者に褒められることで自尊感情の育ちにつながっています。



生徒とともに学ぶ教員免許状更新講習

附属駒場中・高等学校 高校副校長
梶山正明

受講生の先生方と本校の中学1年生がジャンケンの勝敗に一喜一憂する。これは、教員免許状更新講習・附属学校実践演習(選択D)「生活の中の数学」授業の一コマで、モンテカルロシミュレーションをゲーム形式で生徒とともに学び・体験する講座である。

本校では、2010年から選択講習B・C・Dを夏休み後半の3日間にわたり開催している。今年度は6講座を開講したが、そのうちの5講座で本校教員や元教員が講師を担当しているのが特徴である。また、はじめに紹介



した附属学校実践演習など体験型の講座も多い。この実践演習では、数学のほか保健体育(新たな教材を探る)、英語(ディベート入門)、古文(古典で絵の謎を解く)、地理(身のまわりの環境地図)、地学(化石)の6講座から2つを選択することができ、生徒と触れ合うことができる講座も多いので、「筑駒の教育」を直に体験できると好評をいただいている。

2019年度開講講座一覧

選択	講座名(*:体験型講座)
B	演劇の専門家とつくる教室*
B	書写指導* 一児童・生徒の文学への関心を高めるために一
B	漢文訓読 一高校国語での漢文教材の工夫と有効活用一
B	5年後のICT技術と授業・教室* 一エバンジェリストと教員との対話一
C	発達期のこころと行動 一小児科・精神科の視点から一
D	附属駒場中・高等学校実践演習* 体験講座を通して学ぶ「筑駒の教育」



令和でスタート! 新校舎!!

附属桐が丘特別支援学校 副校長
田丸秋穂



現在の学校の外観

桐が丘では新校舎の改築工事が進められています。現在、I期工事が完了し、令和の始まりと共に、待ちに待った5月から新校舎での学習が始まりました。

新校舎の外観は、筑波大学のシンボルカラーと同じ色となっています。そして、旧校舎からの渡り廊下をくぐって、新校舎に足を踏み入れた第一印象は、だれもが、「明るい」「廊下が広い」と口にします。現在は、小学部がホームルームとして新校舎を使っています。新校舎に教室が移転したのは小学部のみですが、5月、6月は、中学部や高等部の生徒たちも新校舎をくまなく見渡して、その見晴らしのよさに感激したり、旧校舎との違い、新校舎のすごい所!などをまとめたりしていました。

(桐が丘のホームページにも紹介しています。6月5日「ここがすごいよ、新校舎」)

各教室も明るく、広くなりました。1年生と6年生の交流給食もゆったりできて、和気あいあいです。



1年生と6年生の
交流給食の様子

現在は、II期工事が進行中です。旧校舎は、完全に取り壊され、9月には更地になりました。すべての工事が完了するには、もう少し時間がかかりますが、昭和、平成と私たちを支え続けてくれた旧校舎に感謝しつつ、新しい校舎と共に、これからの歴史をみんなで作っていきたいと思っています。

桐が丘ホームページ 7月8日「宿泊学習から帰ったら」より



旧校舎
楽しかった
ありがとう

令和元年度 自立教科(理療) 担当教員講習会を開催

理療科教員養成施設 講師 徳竹忠司

令和元年度 視覚特別支援学校自立教科(理療)担当教員講習会が7月16日(火曜日)から19日(金曜日)までの4日間開講されました。本講習会は理療に係わる免許更新講習を兼ねております。

本年度の講習会全体のテーマは「理療科教育に関連するコミュニケーション領域の諸相」と題して開催されました。コミュニケーションに関して、教育改革での重視項目は多様であり、理療教育においては、教員が置かれた状況を反映し、教育、医療、福祉行政等多方面に課題が存在しています。今回は、この広い領域から、言語的領域として主に文章能力について、非言語的領域として接遇や心理、行動について、専門的領域として医療コミュニケーションについて(主に治療者-患者関係)、教育的領域として生徒間関係、生徒-教師関係、教師間関係における課題とその解決策について各専門の講師に解説いただきました。

また、メインテーマとは別に、毎年実施している文部科学省初等中等教育局の講演として今年度は青木隆一先生(文部科学省初等中等教育局視学官(併)特別支援教育調査官)から「理療科教員に求められる専門性」として講演いただき、その後フロアーの現職教員との質疑応答を行う研究協議会を持ちました。

さらに、免許更新講習として参加されている受講者は、講習会最終日にポストテストを受験の上、講習会全体が終了となりました。



左：青木視学官
右：緒方施設長



質疑応答の様子



朝永振一郎記念 第14回 「科学の芽」賞表彰式・発表会のご案内

朝永振一郎記念 第14回「科学の芽」賞 表彰式・発表会を
下記の日程にて開催いたします。

1. 日 時 ……令和元年12月21日(土) 12:30～15:20
2. 会 場 ……大学会館ホール(茨城県つくば市天王台1-1-1)
3. プログラム

12:00 受付開始

12:30 開会

◇表彰状・記念品の授与

◇発表会

小学生部門の作品発表・インタビュー・講評

中学生部門の作品発表・インタビュー・講評

高校生部門の作品発表・インタビュー・講評

◇総評

15:20 閉会

4. 参 観 ……自由(参加費：無料)

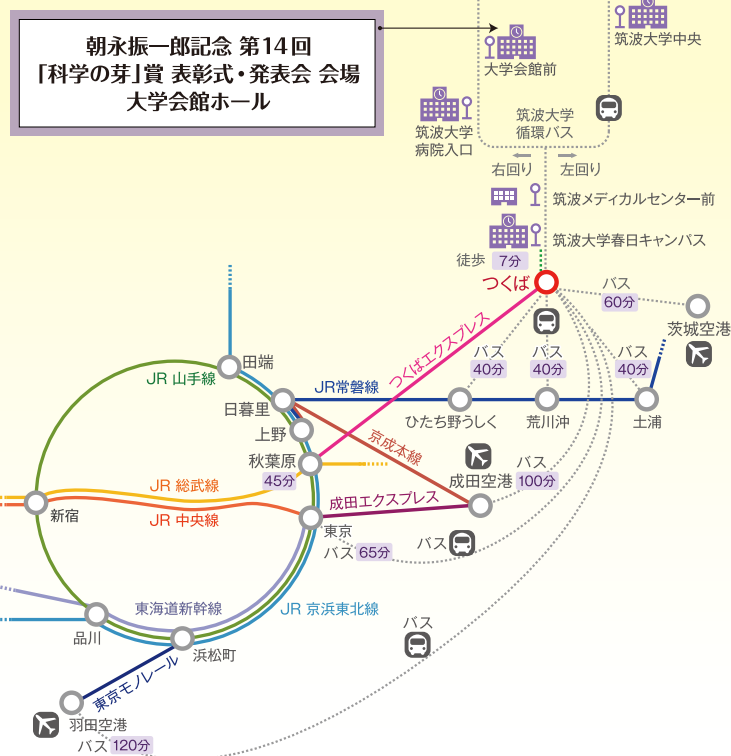
〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1

筑波大学東京キャンパス事務局学校支援課 総務担当

TEL：03-3942-6806 FAX：03-3942-6911

MAIL：kagakunome@un.tsukuba.ac.jp

会場までのアクセス



●広報誌名「ポローニア」の由来

「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia（後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む）こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名（Paulownia imperialis）に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。

ポローニア
paulownia

vol.46

発行日……令和元(2019)年10月31日

発行者……附属学校教育局教育長 茂呂雄二

発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
広報戦略推進委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 電話 03-3942-6800

デザイン……スピーチ・バルーン

印刷……広研印刷 使用紙：ユースライト[日本製紙]

